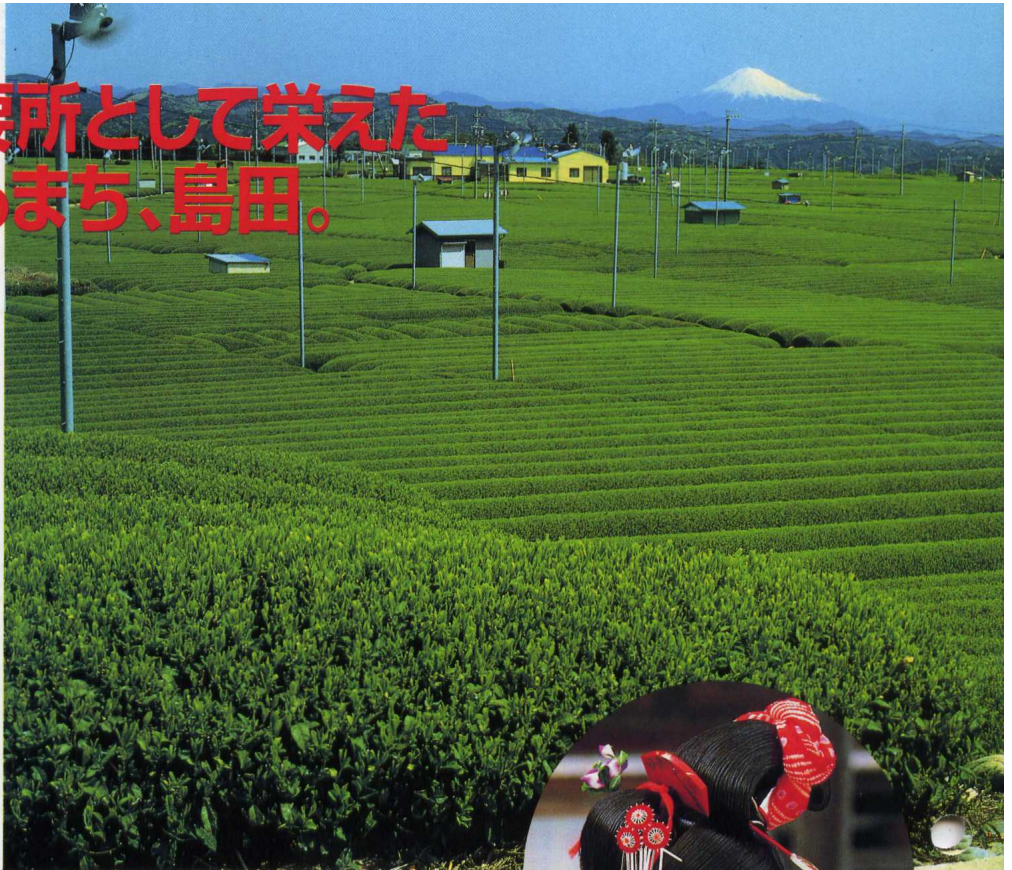




東海道の要所として栄えた 歴史の香るまち、島田。



「箱根八里は馬でも越すが、越すに越されぬ大井川」…江戸年間には東海道一の難所といわれた大井川。その川越しの宿として大いに栄えた島田は、温暖な気候に恵まれ、茶どころとしても知られます。今回は島田市を拠点に活躍しておられる住宅設備商品の代理店さま、丸尾興商株式会社さまを取材させていただきました。

**女性アシスタントの配置や
全車への無線装備など、
ユニークな営業システムを採用。
お客さまへのきめ細かで迅速な
対応を徹底しています。**

丸尾興商株式会社さま



▲茶どころ静岡の中でもとくに規模が大きく、また景観も素晴らしい金谷～島田にまたがる牧之原大茶園。

いまでは花嫁の髪型として知られる「島田髷」。その起源は島田宿の遊女・虎御前が結い始めたともいわれ、毎年9月の第3日曜には「鶴田寺」の髪塚で髷け供養感謝祭が行われます。



▶架橋渡船が禁じられていた江戸時代には、大井川は歩いて渡るしかありませんでした。そこで、旅人を高車したり連台に乗せて運ぶ人夫たちがあらわれ、川越しの風景は大井川を象徴するものとなりました。



ユーザーニーズに迅速に対応するために、当社ではユニークな営業体制をとっています。そのひとつは全営業車への無線装備。無線連絡によって、東西約100キロにわたる広範囲な営業エリアをカバーしています。さらに営業社員一人ずつに女性アシスタントを配置し、チームを組んで社内での電話対応から出荷の一部までを担当。現在、全社で営業マン70名に対して75名の女性が社内をサポートし、きめ細かで素早いサービスを徹底しています。



丸尾副社長さま

また社員には、何事につけても上からの押しつけでなく、全員が“参加している”という積極的な意識を持てるように心がけています。例えば年間を通した当社のスケジュールについては、営業所をまわって皆の意見を聞くとともに、年末までに翌年分を決定して全社員に渡すようにしています。つまり年初めには、1年間の予定を全員が把握しているというわけです。そうすれば、社の動きにそってそれぞれの営業スケジュールもたてやすく、常に前向きな姿勢で取り組めるからです。時代の流れを考え、今後はシステム商品の拡販にさらに力を入れていきたいと考えております。(談)

今月の表紙



島田大祭(島田の帯まつり)

【日本三奇祭】島田市街
寅巳申亥年の10月中旬の3日間

紺のはんてんに金欄のまわし、脚絆にわらじをキリリと締め大奴姿。豪華な丸帯を下げた太刀を両脇にさし、町並みをゆったりと練り歩きます。どこかユーモラスな大奴の行列は、島田大祭の最高の見どころです。昔、島田に嫁いだ花嫁は晴れ着姿で大井神社へお参りしたあと町並みを披露するしきたりでした。が、見世物のようにされるのは気の毒だということから、身代わりに帯を大奴の太刀に飾ってもらい町並み披露を行うようになったとか。安産祈願の短冊もその名残です。